

松浦市文化財調査報告書 第8集

松浦市内遺跡確認調査（5）

2018

長崎県松浦市教育委員会

松浦市文化財調査報告書 第8集

松浦市内遺跡確認調査（5）



2018

長崎県松浦市教育委員会

発刊にあたって

平成 18 年に松浦市、北松浦郡福島町、同鷹島町が合併して 10 年が経ちました。この 10 年の間に鷹島海底遺跡では 2 隻の元の沈没船が発見され、平成 24 年 3 月には鷹島海底遺跡の一部、約 38 万 m² が海底遺跡としては国内初となる国史跡に指定されました。これを受けて、松浦市では鷹島を日本における「水中考古学の拠点」とし、水中考古学の情報発信や発展に寄与すべく平成 29 年 4 月 1 日をもって市立水中考古学研究センターを設置したところあります。

本書は平成 27 年度から平成 29 年度にかけて、土地開発等に伴う確認・試掘調査を実施したその報告になります。今回の調査に際しましては、関係者のご理解と多くの方のご参加を得て実施することができました。特にご協力をいただいた土地所有者の方々をはじめ、多くの人々のご理解とご協力に対しまして、心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、本書が市民の皆様の文化財保護行政に対するご理解、さらにはその普及の一助となることを祈念いたしまして発刊のご挨拶といたします。

平成 30 年 3 月 30 日

長崎県松浦市教育委員会

教育長 今 西 誠 司

例　言

1. 本書は、平成 27 年度から平成 29 年度にかけて実施した松浦市内の遺跡の確認・試掘調査の報告と平成 13 年度から平成 16 年度の鷹島海底遺跡緊急調査で出土した遺物のうち、未報告である木製品と鉄製品の透過 X 線撮影調査と X 線 C T 調査の画像を付した報告である。
2. 調査は、国庫補助及び県費補助を受けて松浦市教育委員会文化財課が主体となって実施した。
3. 調査及び本報告書作成にあたっては、長崎県教育委員会学芸文化課をはじめ、多くの方にご指導ご協力を賜った。
4. 調査は、合澤哲郎・鈴木美奈都（平成 27 年度）、合澤哲郎（平成 28 年度）、早田晴樹（平成 29 年度）があたった。
5. 出土した遺物の実測・製図の作成は吉野貴子、早田、合澤があたった。鷹島海底遺跡出土遺物の実測は株式会社大信技術開発・株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。なお、図版の縮尺は不統一である。
6. 第 VI 章の鉄製品の調査では、X 線 C T 調査を九州国立博物館にご協力を得た。また、透過 X 線撮影調査は、長崎県埋蔵文化財センターのご協力を得て、分析結果の画像の報告はそれぞれより承認を得て掲載した。
7. 本書で用いている方位は磁北である。
8. 本書の執筆は第 I 章、第 II 章及び第 V 章は早田が、第 III 章、第 IV 章及び第 VI 章、第 VII 章は合澤があたり、早田が編集を行った。
9. 本書にかかわる出土遺物は、松浦市生涯学習センター（松浦市志佐町浦免 1483 番地 1）郷土資料室で収蔵・保管している。また、今回報告した鷹島海底遺跡出土金属製品及び木製品は、松浦市立埋蔵文化財センター（松浦市鷹島町神崎免 146 番地）で収蔵・保管している。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに.....	1～4
1. 調査に至る経緯.....	1
2. 調査の組織.....	3
第Ⅱ章 地理的・歴史的環境.....	5～7
1. 地理的環境.....	5
2. 歴史的環境.....	5
第Ⅲ章 平成27年度確認・試掘調査の概要.....	8
1. 剣莖城跡第6次調査.....	8
第Ⅳ章 平成28年度確認・試掘調査の概要.....	9～12
1. 大石C遺跡第2次調査.....	9
2. 大石C遺跡第3次調査.....	11
3. 青島遺跡第3次調査.....	12
第Ⅴ章 平成29年度確認・試掘調査の概要.....	13～18
1. 大石B遺跡第1次調査.....	13
2. 津崎鼻遺跡（隣接地）調査.....	14
3. 戸ノ本崎遺跡第1次調査.....	15
4. 柏ノ木遺跡第29次調査.....	16
第Ⅵ章 鷹島海底遺跡出土金属製品の透過X線撮影調査・X線CT調査について.....	19～25
1. はじめに.....	19
2. 章　結.....	24
第Ⅶ章 鷹島海底遺跡出土木製品の再調査について.....	26～36
1. はじめに.....	26
2. 章　結.....	35

挿 図 目 次

第1図 平成27年度から平成29年度 所収遺跡位置図（1/200,000）	1	第28図 鷹島海底遺跡出土金属製品実測図・X線画像③ (1/2)	22
第2図 松浦市内のおもな遺跡位置図 (1/150,000)	7	第29図 鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像④ (1/3)	23
第3図 刘壹城跡位置図（1/10,000）	8	第30図 平成13年度緊急調査出土木製品① (1/4、1/3)	27
第4図 6次調査区設定図（1/800）	8	第31図 平成13年度緊急調査出土木製品② (1/2、1/8)	28
第5図 6次調査区土層図（1/40）	8	第32図 平成13年度緊急調査出土木製品③ (1/12、1/8)	29
第6図 大石C遺跡位置図（1/10,000）	9	第33図 平成13・16年度緊急調査出土木製品 (1/4、1/3)	30
第7図 2次調査区設定図（1/800）	9	第34図 平成14年度緊急調査出土木製品① (1/3)	32
第8図 2次調査区土層図（1/40）	10	第35図 平成14年度緊急調査出土木製品② (1/2、1/3)	33
第9図 2次調査出土遺物（1/1）	10	第36図 平成14年度緊急調査出土木製品③ (1/3)	34
第10図 大石C遺跡位置図（1/10,000）	11		
第11図 3次調査区設定図（1/400）	11		
第12図 3次調査区土層図（1/40）	11		
第13図 青島遺跡位置図（1/10,000）	12		
第14図 3次調査区設定図（1/800）	12		
第15図 3次調査区土層図（1/40）	12		
第16図 大石B遺跡位置図（1/10,000）	13		
第17図 1次調査区土層図（1/40）	13		
第18図 1次調査出土遺物（1/1）	14		
第19図 津崎鼻遺跡位置図（1/10,000）	14		
第20図 戸ノ本崎遺跡位置図（1/10,000）	15		
第21図 1次調査区土層図（1/40）	15		
第22図 1次調査出土遺物（1/1）	16		
第23図 柏ノ木遺跡位置図（1/10,000）	16		
第24図 29次調査区設定図（1/1500）	17		
第25図 29次調査区土層図（1/40）	18		
第26図 鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像① (1/3)	20		
第27図 鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像② (1/3、1/2)	21		

表 目 次

表1	平成27年度から平成29年度の法第93・94条関係届出等一覧表	2
表2	松浦市内のおもな遺跡一覧表	7
表3	鷹島海底遺跡出土金属製品X線調査結果一覧表	25
表4	鷹島海底遺跡出土木製品一覧表	26

図 版 目 次

図版1	刈萱城跡6次調査区周辺	図版4	桙ノ木遺跡29次遠景
	刈萱城跡6次T1完掘状況（南から）		桙ノ木遺跡29次T1完掘状況（北から）
	大石C遺跡2次作業風景		桙ノ木遺跡29次T1南壁土層断面
	大石C遺跡2次T1完掘状況（東から）		桙ノ木遺跡29次T2完掘状況（東から）
	大石C遺跡2次T2完掘状況（東から）		桙ノ木遺跡29次T2西壁土層断面
	大石C遺跡2次T3完掘状況（東から）		桙ノ木遺跡29次T3完掘状況（東から）
	大石C遺跡2次T4完掘状況（東から）		桙ノ木遺跡29次T3西壁土層断面
	大石C遺跡2次T5完掘状況（東から）		桙ノ木遺跡29次T4完掘状況（東から）
図版2	大石C遺跡3次T1完掘状況（東から）	図版5	桙ノ木遺跡29次T4西壁土層断面
	大石C遺跡3次T2完掘状況（東から）		桙ノ木遺跡29次T5完掘状況（東から）
	青島遺跡3次作業風景		桙ノ木遺跡29次T5西壁土層断面
	青島遺跡3次T1完掘状況（南から）		桙ノ木遺跡29次T6完掘状況（南から）
	青島遺跡3次T2完掘状況（南から）		桙ノ木遺跡29次T6北壁土層断面
	青島遺跡3次T3完掘状況（南から）		桙ノ木遺跡29次T7完掘状況（南から）
図版3	大石B遺跡1次T1完掘状況（北から）		桙ノ木遺跡29次T7北壁土層断面
	大石B遺跡1次T1西壁土層断面		桙ノ木遺跡29次T8完掘状況（南から）
	大石B遺跡1次T2完掘状況（北から）	図版6	桙ノ木遺跡29次T8北壁土層断面
	大石B遺跡1次T2西壁土層断面		桙ノ木遺跡29次T9完掘状況（南から）
	津崎鼻遺跡（隣接地）調査前状況（西から）		桙ノ木遺跡29次T9北壁土層断面
	津崎鼻遺跡（隣接地）完掘状況（西から）		桙ノ木遺跡29次T10完掘状況（西から）
	戸ノ本崎遺跡1次完掘状況（南から）		桙ノ木遺跡29次T10東壁土層断面
	戸ノ本崎遺跡1次北壁土層断面		

第Ⅰ章 はじめに

1. 調査に至る経緯（第1図 表1）

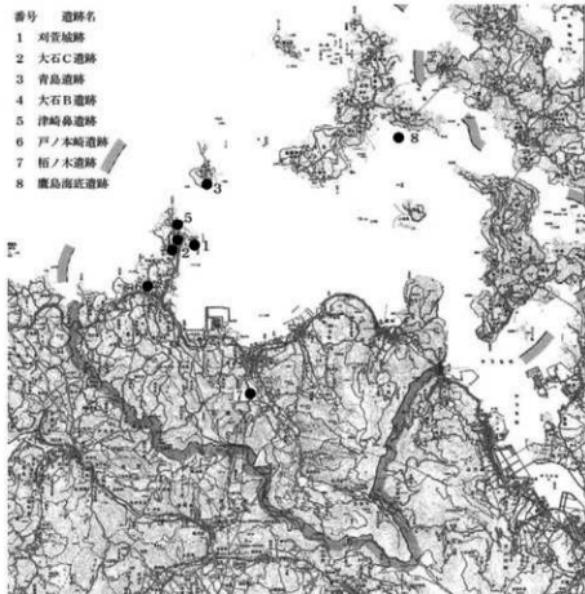
松浦市における埋蔵文化財保護行政は長崎県教育委員会の指導のもと、文化財保護法に基づき立会調査や確認調査などを実施している。

平成27年度の法第93条・94条関係届出等の件数は4件で、このうち国庫補助・県費補助事業（以下、補助事業という）関係で実施した確認調査件数は1件である。

平成28年度の法第93条・94条関係届出等の件数は6件で、このうち補助事業関係で実施した確認調査件数は4件である。

平成29年度の法第93条・94条関係届出等の件数は16件で、このうち補助事業関係で実施した確認調査件数は4件である。

平成27年度、平成28年度の届出件数が5件前後だったのに対し、平成29年度の届出件数は約3倍の16件と大幅に増加している。この16件の届出のうち、小形風力発電及び太陽光発電設備設置工事に係る届出が8件と半数を占めており、今後も届出件数の増加が想定される。



第1図 平成27年度から平成29年度 所収遺跡位置図（1/200,000）

表1 平成27年度から平成29年度の法第93・94条関係届出等一覧表

年度	遺跡名	届出地	事業内容	事業主	処置
27	大岳古墳	御厨町板橋免	地籍調査	松浦市	慎重工事
	刈萱城跡	星鹿町岳崎免2283	星鹿城山頂展望台及び灌漑用施設解体工事	松浦市	確認調査
	辻ノ尾遺跡	志佐町里免366の1ほか	テニスコート改修工事	長崎県知事	慎重工事
	柏ノ木遺跡	志佐町柏木免1726	ソーラーパネル設置	個人	慎重工事
28	柳池遺跡	調川町平尾免1322ほか	地籍調査	松浦市	慎重工事
	大塔遺跡	調川町平尾免1152ほか	地籍調査	松浦市	慎重工事
	大石C遺跡	星鹿町岳崎免1772ほか	土地の造成・牛舎及び堆肥舎の建設	ながさき西海農業協同組合	確認調査
	大石C遺跡	星鹿町岳崎免1876の1	鋼管柱建柱(アンテナ設置)、機器保護用建物	松浦ケーブル株式会社	確認調査
	青島遺跡	星鹿町青島免1027	鋼管柱建柱(アンテナ設置)、機器保護用建物	松浦ケーブル株式会社	確認調査
	青島遺跡	星鹿町青島免1029	鋼管柱建柱(アンテナ設置)、機器保護用建物	松浦ケーブル株式会社	確認調査
29	戸ノ木崎遺跡	星鹿町牟田免314の1	小形風力発電設備設置工事	株式会社ウインドライフ	確認調査
	戸ノ木崎遺跡	星鹿町牟田免314の1	太陽光発電設備工事	株式会社ウインドライフ	慎重工事
	大石B遺跡	星鹿町岳崎免1508ほか	小形風力発電設備設置工事	株式会社ビズグリーン	確認調査
	津崎遺跡	星鹿町岳崎免1058の2ほか	太陽光発電設備設置工事	株式会社ビズグリーン	慎重工事
	陣ノ内城跡	志佐町里免293の1	位牌場及び便所の増築工事	宗教法人寿昌寺	慎重工事
	中ノ瀬遺跡	今福町浦免76の1	測量	松浦市	慎重工事
	柏ノ木遺跡	志佐町柏木免1736の1ほか	工業団地造成	松浦市	確認調査
	合戦原遺跡	御厨町郭尾免8	太陽光発電設備設置工事	未来エネルギー株式会社	厳重注意
	小崎古墳群	御厨町大崎免908	植栽保全	大崎下地区長	慎重工事
	櫛川遺跡	調川町平尾免1568の1	地籍調査	松浦市	慎重工事
	南久保遺跡	調川町平尾免1608の23	地籍調査	松浦市	慎重工事
	久保園遺跡	志佐町里免222の1	住宅建築	個人	慎重工事
	津崎鼻遺跡	星鹿町岳崎免804の1	風力発電設備設置工事	株式会社ライムイシモト	慎重工事
	津崎鼻遺跡	星鹿町岳崎免909	小形風力発電設備設置工事	株式会社ビズグリーン	確認調査
	古園遺跡	調川町平尾免276のイ	測量	松浦市	慎重工事
	長畠遺跡	鷹島町神崎免120の1ほか	太陽光発電設備設置工事	個人	慎重工事

2. 調査の組織（敬省略）

平成27年度

調査主体 松浦市教育委員会事務局

教育長 松尾 紘（平成28年3月31日まで）

教育次長 黒川 政信

文化財課 課長 中田 敦之

課長補佐 内野 義

係長 小澤 智彦

学芸員 合澤 哲郎

主事補 鈴木 涼華（平成28年3月31日まで）

嘱託 鈴木美奈都（平成27年9月30日まで）

平成28年度

調査主体 松浦市教育委員会事務局

教育長 今西 誠司（平成28年4月2日から）

教育次長 黒川 政信

文化財課 課長 中田 敦之（平成29年3月31日まで）

課長補佐 内野 義（平成29年3月31日まで）

係長 小澤 智彦

学芸員 合澤 哲郎

主事 浦田 宗平（平成28年4月1日から）

平成29年度

調査主体 松浦市教育委員会事務局

教育長 今西 誠司

教育次長 黒川 政信

星野 真嗣（平成29年4月1日から）

文化財課 課長 内野 義（平成29年4月1日から）

課長補佐 坂本 秀樹（平成29年4月1日から）

係長 小澤 智彦

学芸員 合澤 哲郎

主事 浦田 宗平

学芸員 早田 晴樹（平成29年4月1日から）

整 理 補 助 員

吉野貴子・山崎由美子

調 査 參 加 者

井出義徳・岩佐朋樹・川下洋子・坂本秀則・竹山勝治・谷川節子・

中川ヨシ子・前田末弘・前田義孝・森淑子・森山浩一郎・森山八重美・

山下洋子・山下政博・吉山猛

調 査 協 力 者

大野しほみ・川畑慶治・小村博員・辻川チカ・浜崎獻悟・宝野万嘉樹・

松瀬逸郎・松瀬一馬・松永博

第Ⅱ章 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

松浦市は長崎県本土北端に位置する北松浦半島の本土部と、その沖に浮かぶ福島・鷹島・黒島・青島・飛島などの島々から構成される。市域は南に市本土の脊梁となる石盛岳や高法知岳、白岳などの山脈が迫り、北に閉鎖性の高い内湾である伊万里湾が存在する。福島、鷹島などの島嶼部は河川に乏しいものの、市本土部には志佐川、今福川などの河川が流れており、いずれも北流し伊万里湾に注いでいる。平地は河川の下流域に僅かに発達するのみである。また、上述の高法知岳、白岳などの山脈が市境となっており、国見山を最高峰とする国見山系が佐賀県との県境となっている。松浦市の西は平戸市と、南は佐世保市と接し、東は佐賀県伊万里市及び唐津市と接している。

地質は溶岩台地・新第三紀層・沖積層・洪積層と大きく4つに分類される。市域は新第三紀層を基盤とし、その上に北松浦玄武岩類と呼ばれる玄武岩の溶岩台地が広がっている。新第三紀層（佐世保層群）は砂岩や泥岩の互層からなっており、多くの薄炭層と凝灰岩を間に挟んでいる。この佐世保層群は厚いところでは層厚1,200mにも及ぶ。北松浦半島一帯は北松炭田として昭和30（1950）年代に栄えたが、炭田はこの薄炭層を利用していた。この薄炭層を含む新第三紀層と砂礫層は互層からなっており、この地域一帯は上位の玄武岩と作用して起こる「北松型地すべり」と呼ばれる地すべりの多発地帯となっている。沖積層は志佐川流域に発達するが、今福川流域においても確認できる。洪積層（段丘）は志佐川流域において確認される。一方、福島、鷹島などの島々は第三紀層と玄武岩に分類されている。

2. 歴史的環境

ここでは市内に分布する主な遺跡について時代ごとに述べることとする。

本市において最も古い人類の活動の痕跡は旧石器時代まで遡る。市域西部に位置する星鹿半島は黒曜石の原産地であり、隣接する佐賀県伊万里市には九州を代表する黒曜石原産地である腰岳が存在している。石材入手が容易であるため、北松地域一帯には多くの旧石器時代、縄文時代の遺跡が存在している。松浦市内において旧石器時代の遺跡数は46カ所確認されており、市内では特に黒曜石原産地である星鹿半島の台地上に遺跡が集中して見られる。今回報告する大石B、大石C遺跡や戸ノ本崎遺跡もこの星鹿半島に立地している。また、市域西部御厨町に位置する田口高野遺跡ではA.T火山灰が確認され、台形石器やナイフ形石器が出土している。

縄文時代では94カ所の遺跡が確認されている。前述の田口高野遺跡では鬼界アカホヤ火山灰が確認されている。田口高野遺跡にほど近い下谷遺跡では21基のドングリ貯蔵穴や土坑が確認されており、鉛桶型石刀技法より産出された腰岳産黒曜石製品が多数確認されている。星鹿半島東岸に位置する姫神社遺跡は昭和41年に日米合同調査が行われており、前期の轟式土器・曾畠式

土器や石鏃・石槍・石斧・石匙などが報告されている。また、鷹島海底遺跡では水深約25mの深さから早期前葉の押型文土器が確認されており、縄文時代における海水位の変化あるいは陸地の沈降現象について注目される。

弥生時代以降になると、これまでの旧石器・縄文時代に比べ確認できる遺跡は限られる。弥生時代の遺跡としては、志佐川流域の栢ノ木遺跡において前期後半頃の甕棺墓と石棺墓の墓域が形成されている。石棺墓からは副葬品として内行花文鏡やガラス小玉などが出土している。また、志佐川を挟んで対岸には久保園遺跡があり、中期の甕棺墓が確認されている。市城東部に位置する今福川流域の中ノ瀬遺跡では中期の堅穴建物跡が確認されている。今福川を望む丘陵上に集落が営まれていたものと思われる。

古墳時代になると、市本土部に小嶋古墳群、福島に横島古墳や小島古墳、鷹島に薰崎鬼塚古墳、宝ヶ峯1号～3号墳が築造される。このうち、発掘調査が実施されたのは小嶋1号墳、宝ヶ峯古墳群のみである。いずれも円墳であり、横穴式石室が用いられている。後期から終末期に位置付けられる。他に宮ノ下リ遺跡では4世紀後半から5世紀代の堅穴建物跡、栢ノ木遺跡では6世紀後半、今福遺跡では4世紀初頭及び6世紀後半の土師器や須恵器が出土している。

古代については明確な遺構が確認されていないため判然としないが、宮ノ下リ遺跡、久保園遺跡、今福遺跡より綠釉陶器碗や越州窯系青磁碗が出土している。

中世になると、楼櫓田遺跡において12世紀ごろの墓壙や掘立柱建物跡が、中ノ瀬遺跡では木棺墓や土壙墓が確認されている。また今福川を挟んで対岸の今福遺跡では11世紀後半から14世紀中ごろの土師器や貿易陶磁器などが出土している。山城跡としては、県史跡である松浦党梶谷城跡などがある。遺物は15世紀後半から17世紀前半の陶磁器類が確認されている。鷹島海底遺跡は鷹島南岸に位置している。日本史上重要な事件である蒙古襲来に係る古戦場跡である。これまで30年以上にわたる水中考古学手法による発掘調査が行われており、『蒙古襲来絵詞』に描かれる「てつはう」や刀剣、矢束、鉄製冑などの武器・武具類、褐釉陶器や青磁碗などの陶磁器類、碇石や船体の一部と考えられる木材などが出土している。平成23年には琉球大学の研究チームが水深20～25mの地点で「1号沈没船」を、平成27年には水深15mの地点で「2号沈没船」を確認している。これらの成果を受け、従来、文献・絵画によってしか知られなかった蒙古襲来の様相を具体的に明らかにしたとして、平成24年3月27日に鷹島海底遺跡内の384,073.61m²が鷹島神崎遺跡として、海底遺跡では国内初となる国史跡に指定されている。平成26年3月には『国指定史跡鷹島神崎遺跡保存管理計画書』を策定している。



第2図 松浦市内のおもな遺跡位置図 (1/150,000)

番号	遺跡名	時代	種別	立地	所在地
1	田口高野遺跡	旧石器・縄文	遺物包含地	台地	御厨町西木場免
2	下谷遺跡	縄文時代	遺物包含地	台地	御厨町西木場免
3	鶴神社遺跡	縄文時代	遺物包含地	平地	星鹿町北久保免
4	鷹島海底遺跡	中世	遺物包含地	海底	鷹島町南岸地先水面
5	稻ノ木遺跡	縄文・弥生・中世	遺物包含地・墳墓	台地	志佐町稻木免
6	久保園遺跡	縄文・弥生・古墳	遺物包含地	平野	志佐町里免
7	中ノ瀬遺跡	縄文・弥生・中世	遺物包含地	平野	今福町浦免
8	小嶋古墳群	古墳時代	古墳	平野	御厨町大崎免
9	横島古墳	古墳時代	古墳	台地	福島町喜内瀬免
10	小島古墳	古墳時代	古墳	岬	福島町端免
11	薙崎鬼塚古墳	古墳時代	古墳	台地	鷹島町阿翁浦免
12	宝ヶ峯古墳群	古墳時代	古墳	台地	鷹島町中通免
13	宮ノ下り遺跡	縄文・古墳・中世	集落・墳墓	平野	志佐町高野免
14	今福遺跡	縄文・弥生・古墳	遺物包含地	平野	今福町仏坂免
15	横櫛田遺跡	旧石器・縄文・中世	遺物包含地	丘陵	志佐町白浜免
16	松浦党梶谷城跡	中世	城館跡	丘陵	今福町東免

表2 松浦市内のおもな遺跡一覧表（番号は地図中の数字に対応）

第III章 平成27年度確認・試掘調査の概要

平成27年度に確認・試掘調査を実施した刈萱城跡について概説する。

1. 刈萱城跡第6次調査

(第3図～第5図 図版1)

立地 本遺跡は、松浦市の北西部、星鹿町岳崎免にある城山の山頂部に位置している。建久2年、源頼朝の命を受け、この地に下向した加藤左衛門重氏が築造されたと伝えられている。

調査地点は、城山の南側に位置する旧展望台の施設周辺の一角で、解体工事に伴う事前の範囲確認調査を行った。

本遺跡の範囲は東西約170m、南北約200mの範囲に展開している。

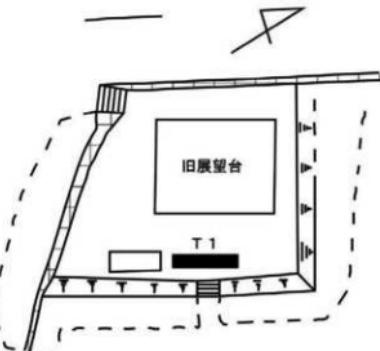
調査 5月22日付けにて旧展望台の解体工事に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、7月23日から7月28日にかけて範囲確認調査を実施した。調査区は1m×5mの1カ所、合計5m²を設定し、人力掘削による調査を実施した。

検出遺構 調査区の第I層の表土を取り除くと赤褐色粘質混礫の造成土に至り、玄武岩を含む明赤褐色粘質土の基盤層に至った。

出土遺物 遺物は確認できなかった。



第3図 刈萱城跡位置図 (1/10,000)



第4図 6次調査区設定図 (1/800)

T 1 東壁



第5図 6次調査区土層図 (1/40)

第IV章 平成28年度確認・試掘調査の概要

平成28年度に確認・試掘調査を実施した大石C遺跡、青島遺跡について概説する。

1. 大石C遺跡第2次調査

(第6図～第9図 図版1)

立地 本遺跡は、市の西部星鹿町岳崎免に位置しており、旧石器時代・縄文時代の遺物包含地として周知されている。調査地点は遺跡の中央部にあたる城山西側の台地に位置している。

本遺跡周辺の東側に位置する城山の山頂部に刈萱城跡、北側に大石B遺跡が位置している。

調査 9月16日付けにて牛舎建設に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、12月7日から12月27日にかけて確認調査を実施した。調査区は2m×2mを計5箇所設定し、合計20m²を人力掘削による調査を実施した。

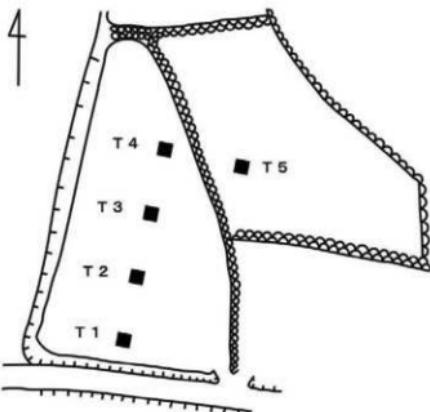
検出遺構 T1・T2はII層で赤褐色粘質土の堆積が見られた。T3・T4・T5もIII層で赤褐色粘質土の堆積を確認したが、木の根の痕跡が一部に見られた。

遺構・遺物包含層は確認できなかった。

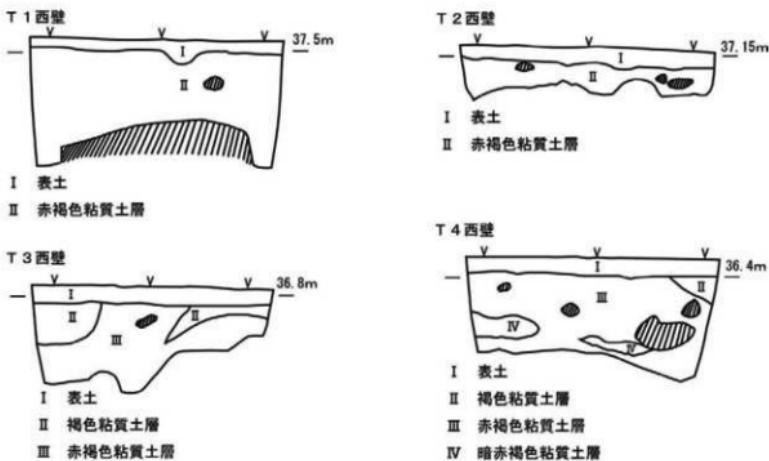
出土遺物 調査によって出土した遺物は全て表土からの出土で、黒曜石製細石核、黒曜石製剥片、陶磁器片等が確認できた。



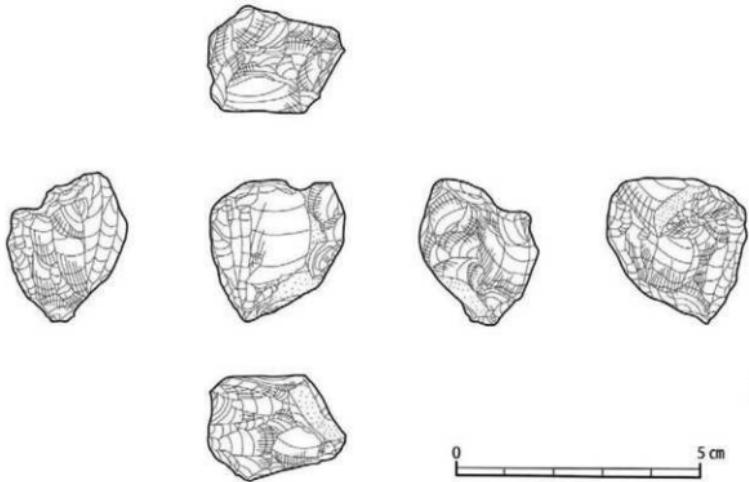
第6図 大石C遺跡位置図 (1/10,000)



第7図 2次調査区設定図 (1/800)



第8図 2次調査区土層図 (1/40)



2. 大石C遺跡第3次調査

(第10図～第12図 図版2)

立地 調査地点は城山の麓東側に位置する。

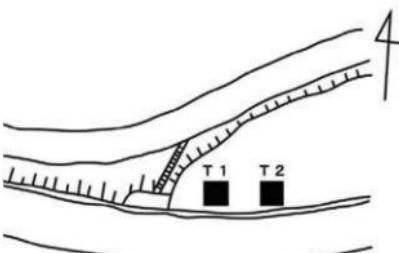
調査 1月11日付けにてアンテナ建設に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、2月6日から2月9日にかけて確認調査を実施した。調査区は2m×2mを計2箇所設定し、合計8m²を人力掘削による調査を実施した。

検出遺構 T1・T2共に表土を取り除くと暗褐色混疊粘質土、褐色混疊粘質土、黒色粘質土の堆積を確認したが、遺構は確認できなかつた。

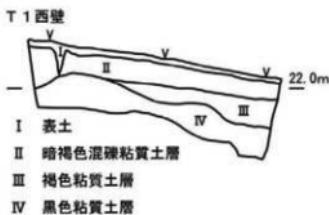
出土遺物 調査によって出土した遺物は全て表土からで、黒曜石製剥片、陶磁器片等が確認できた。



第10図 大石C遺跡位置図 (1/10,000)



第11図 3次調査区設定図 (1/400)



第12図 3次調査区土層図 (1/40)

3. 青島遺跡第3次調査

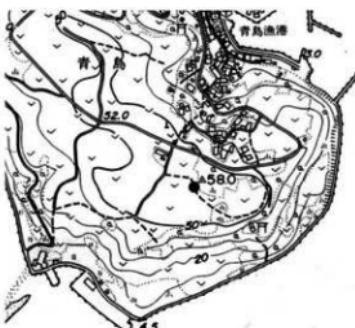
(第13図～第15図 図版2)

立地 本遺跡は、本市北西部の星鹿町津崎鼻より沖台北東約1.2kmに位置する青島の南側に位置する。調査地点は標高約50mの玄武岩台地上に位置している。平成9年度に第1次調査、平成24年度に第2次調査を行っている。

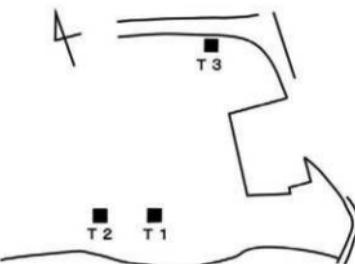
調査 1月11日付けにてアンテナ建設に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、2月15日から2月23日にかけて確認調査を実施した。調査区は2m×2mを計3箇所設定し、合計12m²を人力掘削による調査を実施した。

検出遺構 T1は表土を取り除くと褐色粘質土層が確認できた。T2は表土を取り除くと明褐色粘質土層、暗褐色混疊粘質土層を確認した。T3では表土の下に濃褐色粘質土層を確認した。
遺構は確認できなかった。

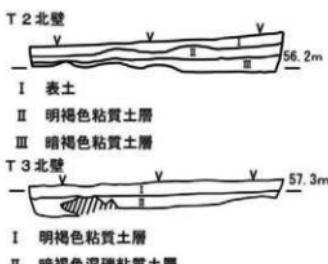
出土遺物 調査によって出土した遺物は全て耕作土からで、黒曜石製剣片、陶磁器片等が確認できた。



第13図 青島遺跡位置図 (1/10,000)



第14図 3次調査区設定図 (1/800)



第15図 3次調査区土層図 (1/40)

第V章 平成29年度確認・試掘調査の概要

本章では平成29年度に確認・試掘調査を実施した大石B遺跡、津崎鼻遺跡、戸ノ本崎遺跡、栢ノ木遺跡について概説する。

1. 大石B遺跡第1次調査

(第16図～第18図 図版3)

立地 本遺跡は、松本市北西部の星鹿半島先端部、標高30m前後の丘陵上に位置する。本遺跡の立地する丘陵の東側裾部に逃ノ浦遺跡、南側に大石A遺跡及び平成28年度に確認調査を行った大石C遺跡がある。

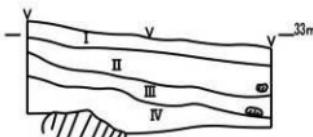
調査 5月1日付けにて小形風力発電設備設置工事に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、7月3日から7月10日にかけて範囲確認調査を実施した。調査区は2m×2mの2箇所、合計8m²を設定し、人力掘削による調査を実施した。なお、T2に関しては遺跡隣接地である。

検出遺構 T1・T2とともに第I層は現代の耕作土である。また、両調査区とも第II層・第III層が現代の搅乱を受けていることを確認した。遺構・遺物包含層は検出できなかった。



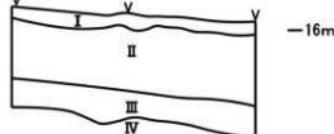
第16図 大石B遺跡位置図 (1/10,000)

T1西壁



- I 表土（現代の耕作土）
II 褐色土層 III 暗褐色土層
IV 地山（玄武岩風化土）

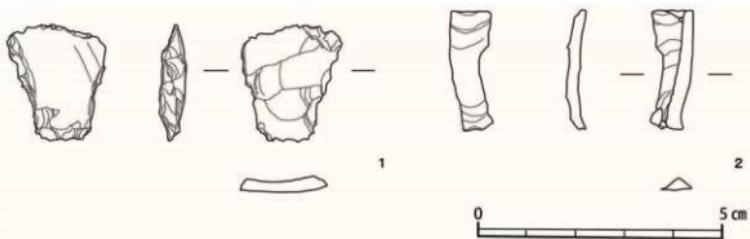
T2西壁



- I 表土（現代の耕作土）
II 褐色土層 III 黒褐色粘質土
IV 地山（玄武岩風化土）

第17図 1次調査区土層図 (1/40)

出土遺物 1はT 1付近にて表面採集した黒曜石製の台形石器である。片面は剥離面をそのまま残している。2は黒曜石製の剥片である。T 1の第III層より出土した。



第18図 1次調査出土遺物 (1/1)

2. 津崎鼻遺跡（勝接地）

(第19図 図版3)

立 地 本遺跡は松浦市北西部に位置する星鹿半島の先端部、標高35~40m前後の丘陵上に位置する。本遺跡の北側に津崎鼻A遺跡、南側に津崎遺跡が所在する。

調 査 5月1日付けにて小形風力発電設備設置工事に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、7月10日から7月12日にかけて範囲確認調査を実施した。調査区は2m×2mの合計4m²を設定し、人力掘削による調査を実施した。



第19図 津崎鼻遺跡位置図 (1/10,000)

検出遺構 表土を5cm程取り除くと、赤褐色玄武岩風化土の基盤層に至った。遺構・遺物包含層は確認できなかった。

出土遺物 出土した遺物はいずれも表土からで、黒曜石片、近世磁器が出土している。いずれも小片のため、図化していない。

3. 戸ノ本崎遺跡第1次調査

(第20図～第22図 図版3)

立地 本遺跡は市の北西部に位置する星鹿半島西岸の標高10m前後の丘陵上に所在する。本遺跡の北側に佐世保崎遺跡が、道路を隔てた西側の丘陵上には牟田C遺跡が所在する。

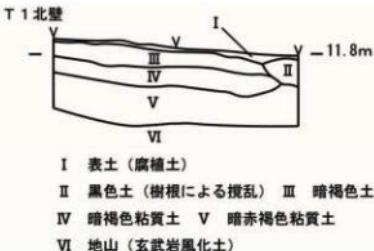
調査 5月2日付けにて小形風力発電設備設置工事に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、7月12日から7月13日にかけて範囲確認調査を実施した。調査区は2m×2mの合計4m²を設定し、人力掘削による調査を実施した。



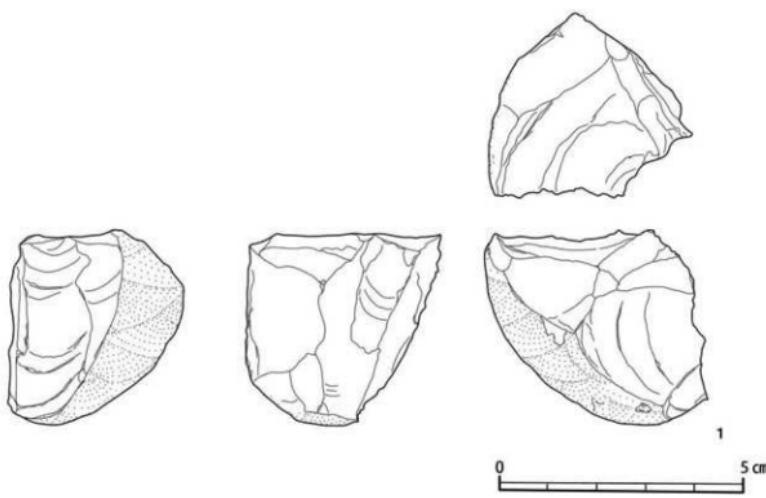
第20図 戸ノ本崎遺跡位置図 (1/10,000)

検出遺構 当該地の現状は、植林された杉林及び自然林であり、調査区内は樹根による搅乱が多く入る状況であった。II・IV・V層はいずれも玄武岩の影響により堆積したものと考えられる。遺構及び遺物包含層は確認できなかった。

出土遺物 Iは第IV層より出土した石核である。色調は漆黒であるが、一部茶褐色の筋が入る。原石表面は海綿状を呈する。



第21図 1次調査区土層図 (1/40)



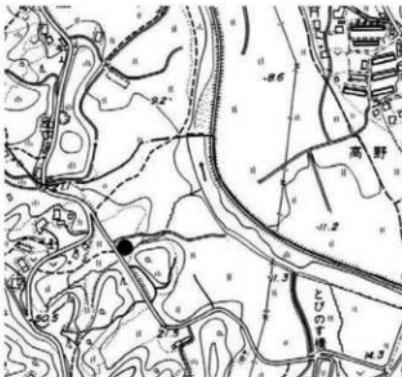
第22図 1次調査出土遺物（1/1）

4. 梢ノ木遺跡第29次調査

（第23図～第25図 図版4～6）

立地 本遺跡は、市の中心部を流れる志佐川西部の河岸段丘から佐々山川、庄野川流域の沖積平野に広がる水田地帯にかけて位置している。志佐川を挟んで対岸には宮ノ下り遺跡が位置している。

調査 7月28日付けにて工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、8月21日から9月5日にかけて範囲確認調査を実施した。工事予定箇所が広範囲に及ぶことから計10箇所の調査区を設定し、人力掘削による調査を実施した。調査面積は計37m²である。



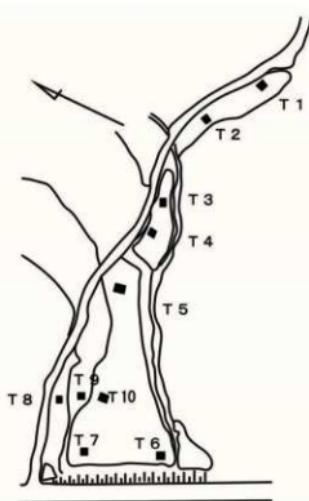
第23図 梢ノ木遺跡位置図（1/10,000）

検出遺構 当該地は山腹から突き出した丘陵と丘陵の間に挟まれた谷地となっており、志佐川に向かい緩やかに傾斜している。南側の丘陵はかつて堂山と呼ばれ、丘陵全体が砂岩の岩塊となっている。

T 1 及び T 2 の堆積状況は同じ様相を示す。各層に黄褐色の砂岩疊及び石炭の小片が混入する。T 1、T 2 ともに最下層に黄灰色の砂岩岩盤を調査区全面に検出した。T 3 及び T 4 では第Ⅲ層～第V層が現代の造成土であることを確認した。T 5においても同じ造成土を確認しており、T 5の第IV層がT 3、T 4 の第Ⅲ層に、第V層がT 3、T 4 の第V層に対応する。T 6 でも第V層にて現代の造成土を確認している。なお、T 6 第V層は第IV層を一部削平したのちに入れられているようである。しかし、隣接するT 7においては造成土は確認していない。T 10においても造成土を確認した。第II層及び第V層、第VI層がそれである。

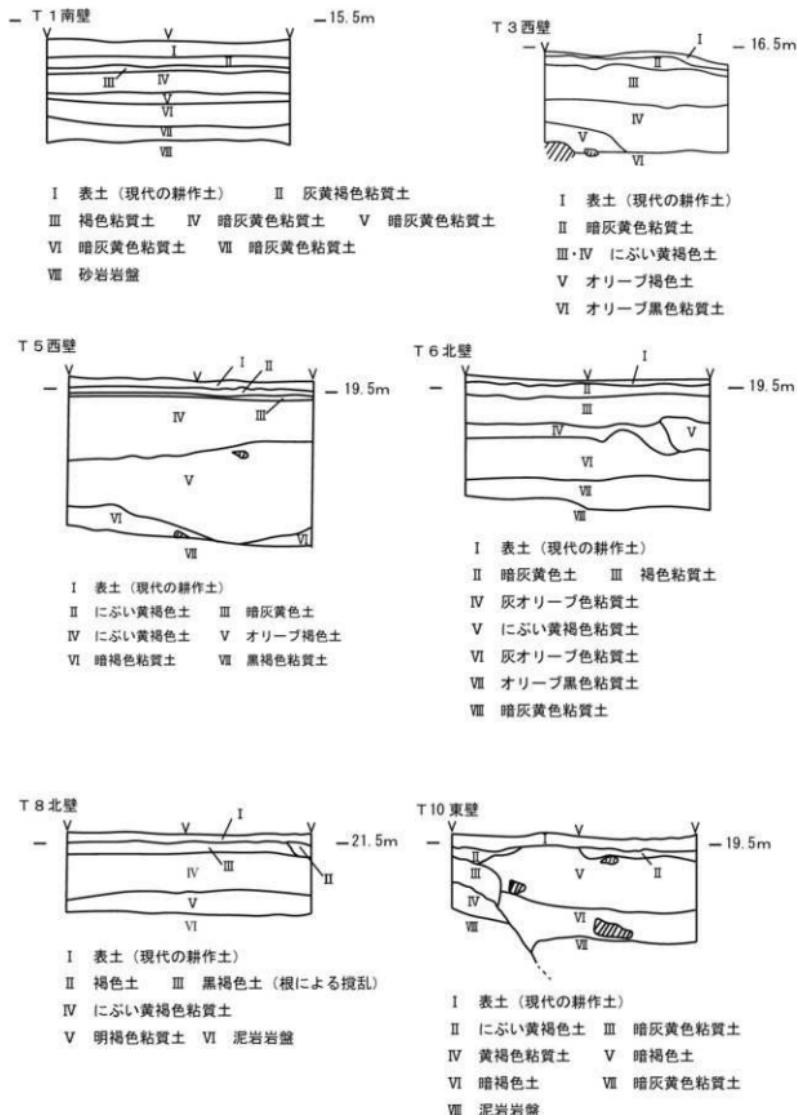
T 8 及び T 9 は北側に位置する丘陵斜面を削平した畑地であり、T 5～T 7、T 10 を設定した畑地より一段高くなっている。こちらでは、堂山とは違い泥岩岩盤を下層に検出した。この泥岩の一部をT 10においても確認している。

以上、確認調査の結果、当該地は現代の造成を受けており、いずれの調査区からも遺構、遺物包含層は確認できなかった。



第24図 29次調査区設定図（1/1500）

出土遺物 T 1 からは近世陶磁器に混じって小片であるが、弥生土器片や同安窯系かと見られる青磁盤の口縁部、高麗青磁が出土した。弥生土器片は摩耗が著しく、かつ小片のため、器種は不明である。いずれも小片のため図化していない。



第 25 図 29 次調査区土層図 (1/40)

第VI章 鷹島海底遺跡出土金属製品の透過X線撮影調査・ X線CT調査について

1.はじめに

鷹島海底遺跡から出土する鉄製品は、700年以上海底面下に埋没していた影響により、貝殻や砂を巻き込んで錆化し、遺物本来の使用用途について、形状から把握することが非常に難しい。

しかしながら、X線を用いた構造調査を行うことにより、本来の遺物の形状や状態を知ることができることが分かつており、独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館でのX線CT調査、長崎県埋蔵文化財センターでの透過X線撮影調査を継続して行っている。

今回、X線CT調査・透過X線撮影調査によって新たな知見を得ることができた遺物があったため、その成果を報告する。なお遺物の形状はX線CT画像では黒色、透過X線撮影画像では白色の影で表示される。

1は鉄釘と報告している。遺物は著しく錆化が進んでおり、メタルは残存していない。本来の遺物があった箇所は空洞となっている。

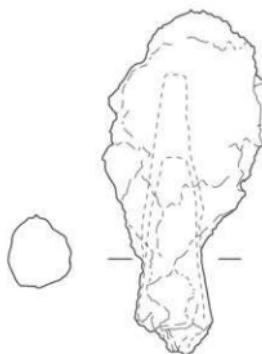
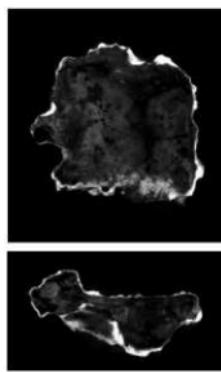
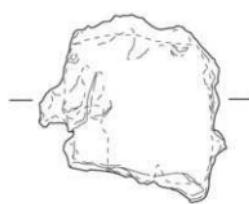
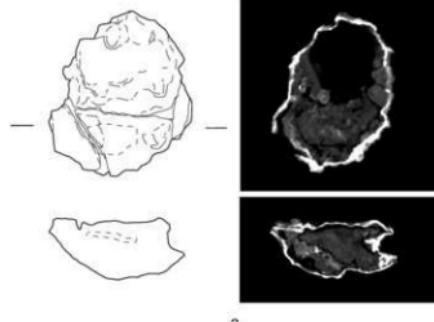
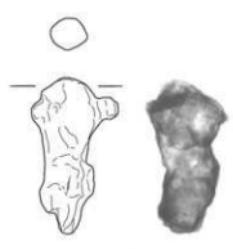
2は鉄板状製品と報告している。X線CT調査により内部に厚さ約1mmの板状の遺物があることが分かつた。遺物は著しく錆化が進んでおり、メタルは残存していない。

3は不明鉄製品と報告している。X線CT調査により内部に厚さ約3mmの板状の遺物があることが分かつた。遺物は著しく錆化が進んでおり、メタルは残存していない。内部に鉛と考えられる丸い空洞が確認できることから鋳造品かと思われる。また遺物が曲面を描いており、かつ厚みがあることから鉄鍋の破片の可能性がある。

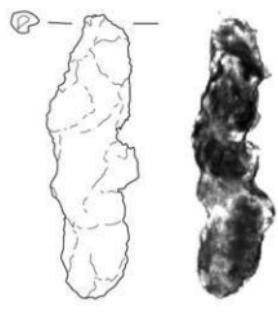
4は**5**と同一個体として鉄釘と報告している。本遺物は2点で1つの遺物として報告していたが、X線CT調査により鉄釘と袋状の構造を持つ遺物であり異なる個体であることが分かつたため、2つに分けて報告する。X線CT調査の結果、鉢の袋部のような構造があることが分かつた。また袋部には木材が挿入された状態で残存していることも分かつた。袋部の先は欠損しており、用途は不明であるが、本遺物が発見された鷹島海底遺跡の発掘調査で鉄鉢が見つかっていることから鉢の可能性が考えられる。

5と**4**と同一個体として鉄釘と報告している。透過X線撮影調査により内部の形状を調査したが、著しく錆化が進んでおり内部形状は不明瞭である。

6は鉄刀と報告している。透過X線撮影調査では内部に金属製の遺物は確認できなかった。外見より金属ではなく、木質で構成されていること、内部に金属製の遺物が確認できないのに錆が付着していることから、短剣や短刀の鞘である可能性がある。

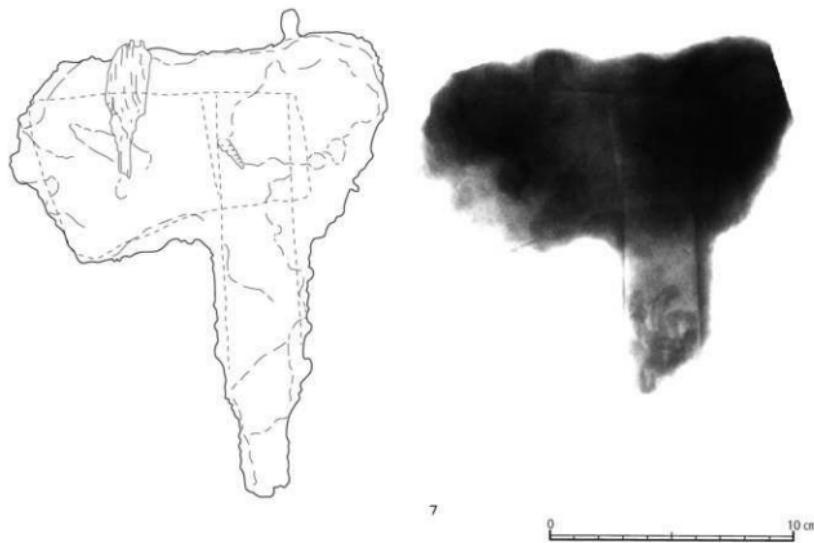
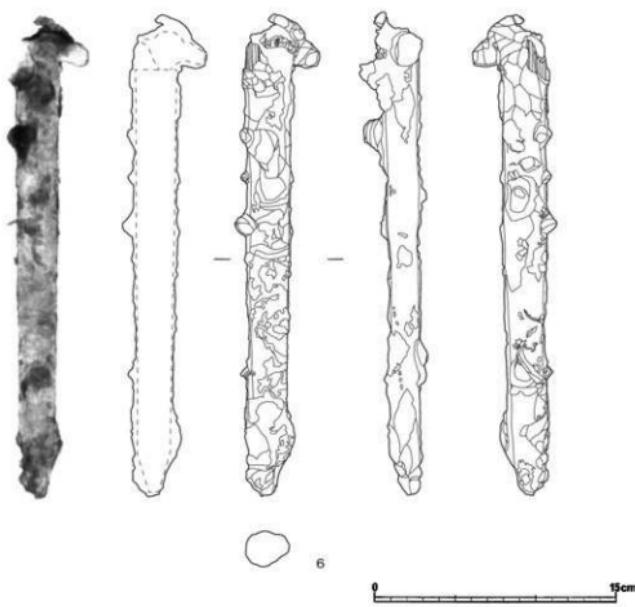


4

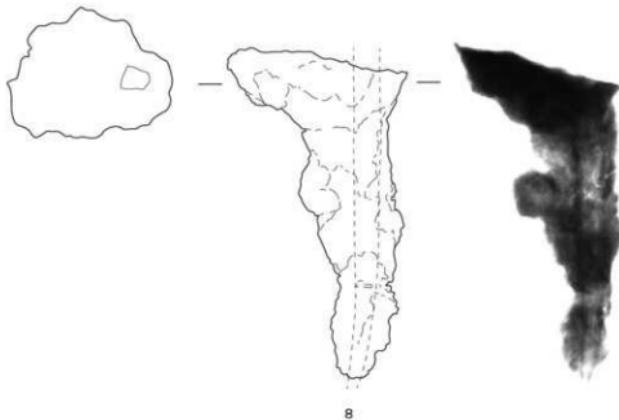


0 5 10 cm

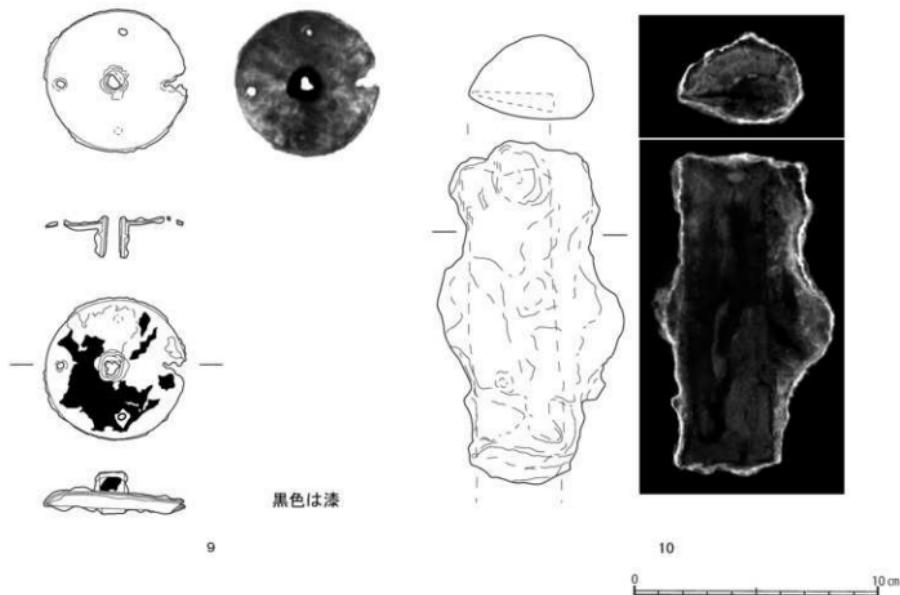
第26図 鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像① (1/3)



第27図 鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像②（6は1/3、7は1/2）



8

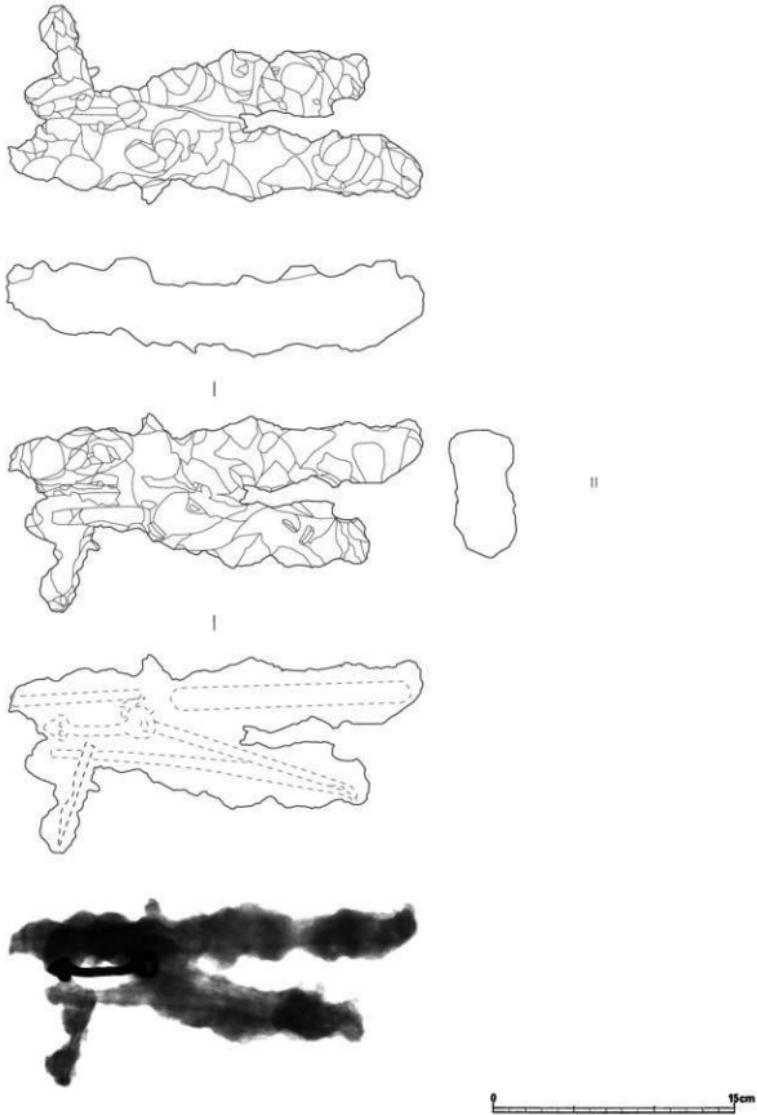


9

10

0 10 cm

第28図 鷹島海底遺跡出土金属製品実測図・X線画像③ (1/2)



第29図 鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像④（1/3）

7は斧と報告している。透過X線撮影調査により内部に斧があることが分かった。柄の部分の木材にはナクイムシによる蚕食が確認できる。柄を差し込む穴は楔を打ち込めるよう隙間が残っており、楔は残存していない。片刃である。

8は鉄釘と報告している。透過X線撮影調査により内部に釘があることが分かった。遺物は著しく錆化が進んでおり、メタルは残存していない。

9は銅製金具と報告している。約6cm径の円盤状の製品で、中央に6mm径の軸穴があり、また遺物の円周部3カ所にも2~3mmの穴が開けられている。それぞれ軸を中心と直角になるように穿孔されており、欠損箇所にもあったと考えられる。片面のみ黒漆が塗布されている。用途は不明である。

10は鉄刀と報告している。X線CT調査により、重ね約3mm身幅約30mmの刀身の破片であることが分かった。残存長は約140mmであり、反りは見られない。遺物は著しく錆化が進んでおり、メタルは残存していない。内部の空洞化が進んでいる。

11は鉄製品と報告しており、用途不明として取り扱っていた。透過X線調査により内部に鉗と銅製帶金具があることが分かった。棒状の鉄製遺物も確認できたが、錆化が進んでおり不明瞭で用途は不明である。帶金具は本遺物が発見された調査で同形のものが見つかっている。

2. 章 結

鷹島海底遺跡出土金属製品の知見を得るために、X線を利用した構造調査を行う必要があることをあらためて認識した。過去の調査で出土した金属製品については、外観から遺物用途を推定し報告しているものがあるが、X線を用いた調査を行うことで想像していなかった結果が得られている。

今後もX線を利用した構造調査を継続して行い、海底遺跡出土遺物に対しての有効性を実証していく。

表3 鷹島海底遺跡出土金属製品X線調査結果一覧表

KZK01(平成13年度)緊急調査出土遺物一覧表

検出番号	遺物番号	種別	遺物名	透過X線	X線CT	X線調査での遺物名	備考
第26回2	246	鉄製品	不明(鉄板状製品)	○	◎	板状鉄製品	
第26回3	284	鉄製品	不明	○	◎	板状鉄製品	鍛造遺物で鉄錆の可能性有
第26回1	296	鉄製品	釘	◎	○	鉄釘	

KZK02(平成14年度)緊急調査出土遺物一覧表

検出番号	遺物番号	種別	遺物名	透過X線	X線CT	X線調査での遺物名	備考
第26回4	244	鉄製品	鉄釘	◎	○	鉄鉤	2個体で1点
第26回5	244	鉄製品	鉄釘	◎	○	鉄釘	2個体で1点
第27回6	270	鉄製品	鉄刀?	◎	○	鞘	
第27回7	588	鉄製品	斧?	◎	○	斧	
第28回8	741	鉄製品	鉄釘	○		鉄釘	
第28回9	750	銅製品	銅製金具	◎		銅製金具	漆膜が付着
第29回11	1042	鉄製品	鉄製品	◎	○	鉄・銅製金具	

TKS14(平成16年度)緊急調査出土遺物一覧表

検出番号	遺物番号	種別	遺物名	透過X線	X線CT	X線調査での遺物名	備考
第28回10	3	鉄製品	鉄刀	○	◎	鉄刀	

◎: 調査済(因版使用) ○: 調査済

第VII章 鷹島海底遺跡出土木製品の再調査について

1. はじめに

鷹島海底遺跡から出土した木製品は、海中環境に置かれていたことでナクイムシによる蚕食などを受け、本来の形状を保っていないものが多い。今回、実測を行い、新たな知見を得ることができた遺物があつたため、ここに報告する。なお樹種は平成23年度松浦市教育委員会発行の『松浦市文化財調査報告書第4集 松浦市鷹島海底遺跡 総集編』を参照している。

1は丸太材と報告している遺物である。樹種は南洋材の *Dalbergia* sp. で最大長 33.65 cm、最大幅 7.3 cm、厚さ 4.6 cm を測る。鉄釘は貫入していない。蚕食が著しく元の形状は不明であるが、同樹種の遺物で丸太材を半裁した形状のものがあり、元々は同様の形状だったと考えられる。

2は船材、板材片と報告している遺物である。樹種はクスノキで最大長 29.2 cm、最大幅 6.4 cm、厚さ 5.1 cm を測る。鉄釘痕が 4 カ所残っており、全て遺物を貫通している。蚕食痕は見られないが、埋没時に欠損したのか、元の形状は不明である。

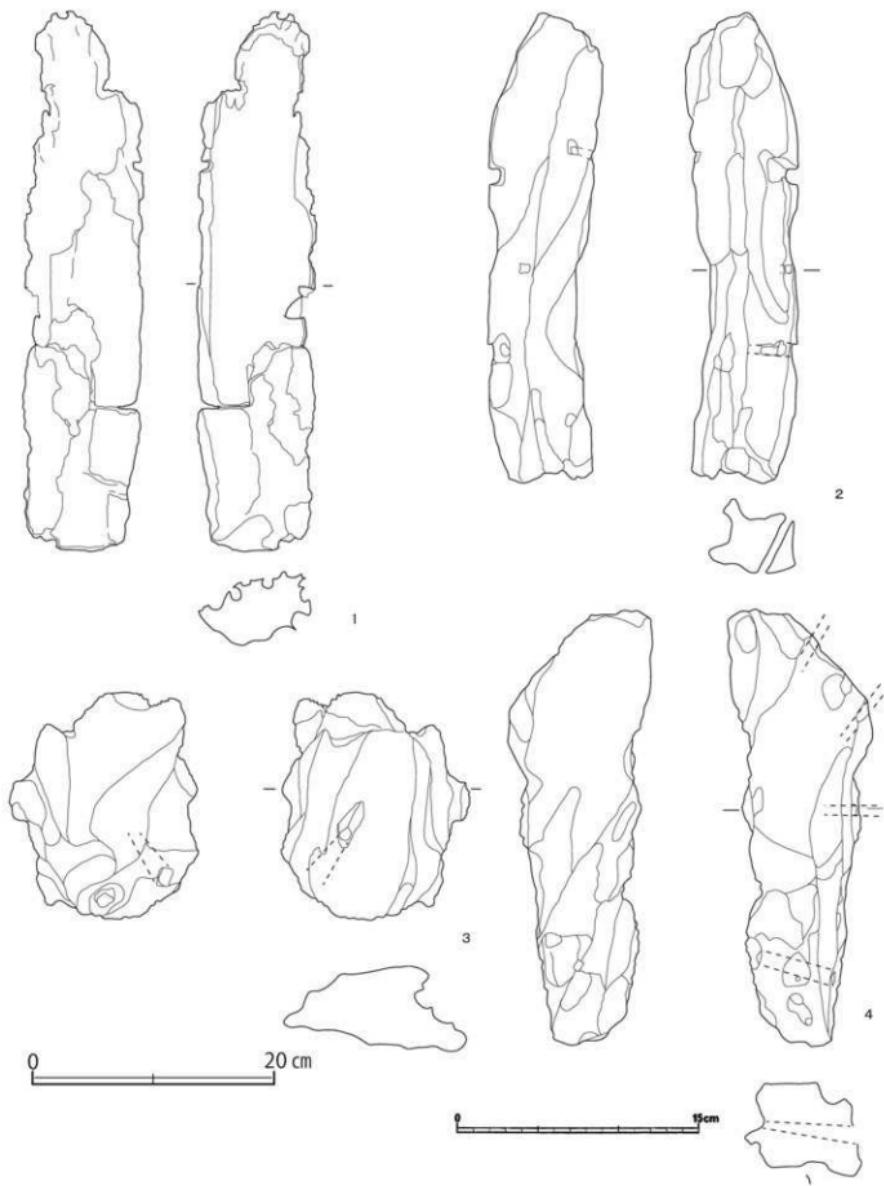
3は船材、板材と報告している遺物である。樹種はクスノキで最大長 18.5 cm、最大幅 15.3 cm、厚さ 6.6 cm を測る。鉄釘痕が 2 ケ所残っている。蚕食痕は見られないが、埋没時に欠損したのか、元の形状は不明である。

4は船材、板材と報告している遺物である。樹種はクスノキ科の木材で、最大長 25.8 cm、最大幅 8.3 cm、厚さ 7.1 cm を測る。鉄釘痕が 4 カ所残っている。蚕食痕は見られないが、埋没時に欠損したのか、元の形状は不明である。鉄釘が貫入している方向が縦方向と横方向と異なることから隔壁材の可能性が考えられる。

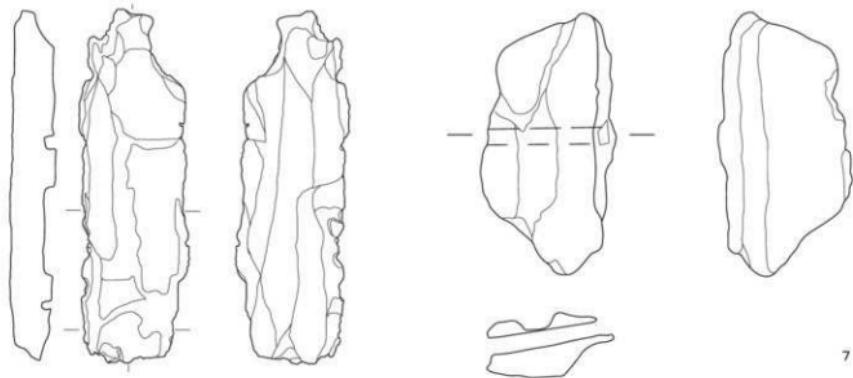
5は形状から用途が判別できなかった遺物である。最大長 58.8 cm、最大幅 18.0 cm、厚さ 8.2 cm を測る。鉄釘は貫入していない。蚕食が著しく元の形状は不明である。

6～10は形状から用途が判別できなかった同個体遺物である。5 個体で 1 点を数えるが、接合はできない。6 は最大長 80.4 cm、最大幅 16.6 cm、厚さ 9.2 cm を測る。鉄釘痕が 2 カ所残っており、表面が一部炭化している。7 は最大長 10.9 cm、最大幅 5.4 cm、厚さ 2.7 cm を測る。鉄釘痕が 1 ケ所残っている。8 は最大長 6.6 cm、最大幅 6.4 cm、厚さ 2.9 cm を測る。鉄釘痕が 1 ケ所残っている。9 は最大長 10.2 cm、最大幅 3.0 cm、厚さ 2.4 cm を測る。鉄釘痕が 1 ケ所残っている。10 は最大長 12.1 cm、最大幅 4.1 cm、厚さ 3.4 cm を測る。鉄釘痕が 1 ケ所残っている。

11・12は形状から用途が判別できなかった同個体遺物である。2 個体で 1 点を数え、接合はできない。11 は最大長 150.3 cm、最大幅 24.9 cm、厚さ 11.3 cm を測る。鉄釘痕が 3 カ所残っている。蚕食痕が見られ、表面が一部炭化している。12 は最大長 15.8 cm、最大幅 5.3 cm、厚さ 2.2 cm を測る。蚕食痕が見られる。鉄釘は貫入していない。



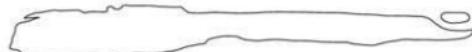
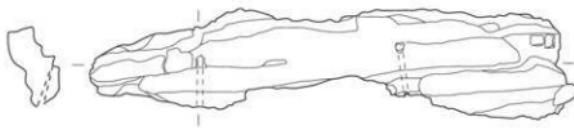
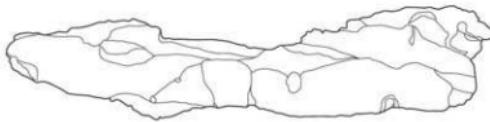
第30図 平成13年度緊急調査出土木製品①（3のみ1/4、他は1/3）



5

7

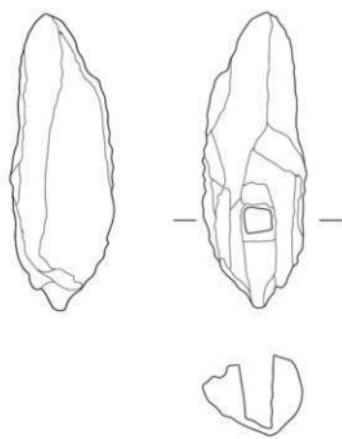
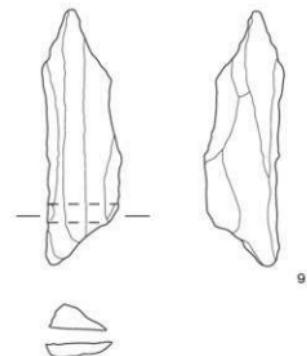
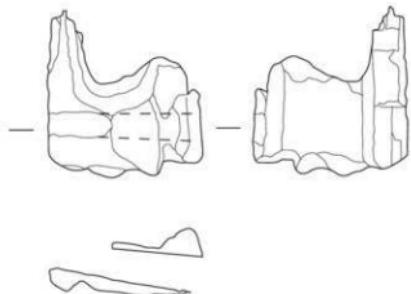
0 10 cm



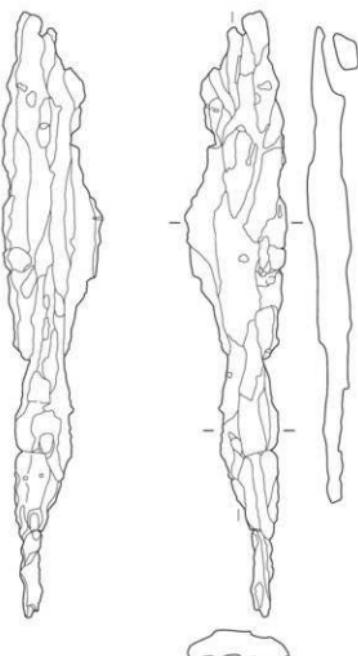
6

0 20 cm

第31図 平成13年度緊急調査出土木製品② (7のみ1/2、他は1/8)

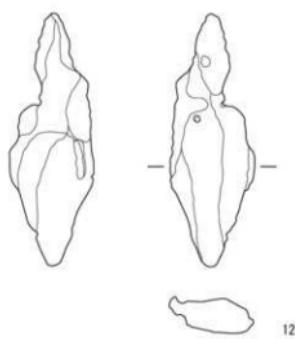


0 10 cm

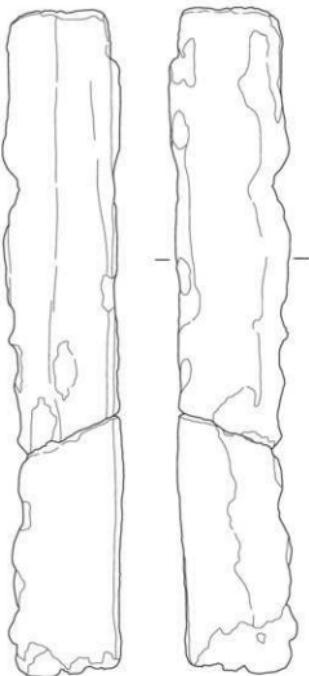


0 60 cm

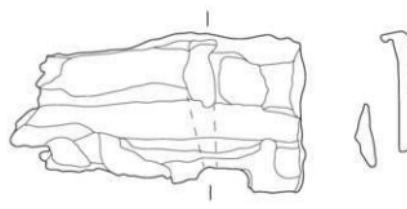
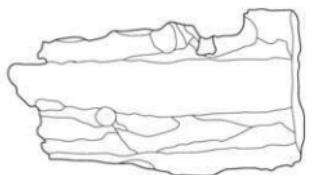
第32図 平成13年度緊急調査出土木製品③ (11のみ1/12、他は1/8)



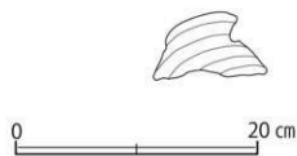
12



13



14



0 20 cm



第33図 平成13・16年度緊急調査出土木製品 (13のみ1/4、他は1/3)

13は板材と報告している遺物である。樹種は南洋材の *Dalbergia* sp. で最大長 55.25 cm、最大幅 9.8 cm、厚さ 5.5 cm を測る。鉄釘は貫入していない。蚕食により状態は良くないが形状は概ね残っている。丸太材を半裁したような形をしている。

14は船材と報告している。樹種はクスノキで最大長 18.3 cm、最大幅 10.0 cm、厚さ 4.8 cm を測る。鉄釘痕が 1 カ所残っている。蚕食による欠損が著しいが、板材であったと考えられる。

15は木栓？と報告している。樹種はマツ属複維管東亜属で最大長 9.8 cm、最大幅 5.3 cm、厚さ 4.9 cm を測る。蚕食痕が見られるが、全形を保っている。形状はキノコ形で、柄部の 2 カ所に異なる角度から空いた穴が貫通している。穴は 0.6 cm 角の方形をしており、周囲には鉄錆が確認できる。

16は木栓と報告している。樹種はマツ属複維管東亜属で最大長 9.9 cm、最大幅 5.7 cm、厚さ 5.1 cm を測る。蚕食痕は見られない。形状はキノコ形で、14 と同様に柄部の 2 カ所に穴が貫通しており、頭部の一部が欠損している。穴は 0.7 cm 角の方形をしており、周囲には鉄錆が確認できる。

17は板状木製品と報告している。樹種はスギ科で最大長 29.5 cm、最大幅 4.3 cm、厚さ 2.0 cm を測る。長辺に対し水平方向に蚕食痕とみられる穴が空いている。また鉄釘痕と思われる穴が 4 カ所残つており、内 3 つは貫通している。穴のサイズは 0.4 cm 角の方形と 0.7 cm 角の方形の 2 種類ある。0.4 cm 角の穴の内 1 カ所については周囲に鉄錆が確認できる。

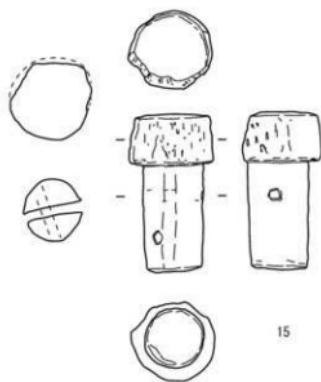
18は木栓と報告している。樹種はマツ属複維管東亜属で最大長 9.2 cm、最大幅 4.8 cm、厚さ 3.6 cm を測る。フナクイムシによる蚕食痕は見られないが、腐朽が進み、大きく欠損している。形状はキノコ形で、柄部の 2 カ所に異なる角度から空いた穴が貫通している。穴は 0.4 cm 角の方形をしており、周囲には鉄錆が確認できる。

19は木栓と報告している。樹種はマツ属複維管東亜属で最大長 23.2 cm、最大幅 2.7 cm、厚さ 2.5 cm を測る。形状は他の木栓と大きく異なり、キノコ型よりも斎串状に近い。蚕食痕は見られないが頭部が一部欠損している。

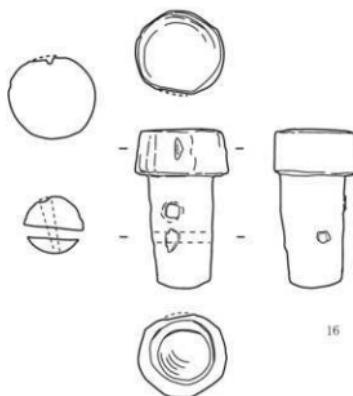
20は木栓？と報告している。樹種は中国南部を産地とするコウヨウザンで最大長 5.7 cm、最大幅 3.7 cm、厚さ 3.7 cm を測る。形状は円柱状で、2 カ所に異なる角度から空いた穴が貫通している。穴は 0.4 cm 角の方形をしており、周囲には鉄錆が確認できる。

21は刀柄と報告している。樹種はナツメで最大長 11.8 cm、最大幅 3.9 cm、厚さ 2.7 cm を測る。蚕食による欠損が見られるが、一部に黒漆が残存している。柄縁端部と柄頭端部の小口面 2 方向から茎を挿入するための穿孔がなされる。柄縁側からの穿孔は長楕円形、柄頭側からの穿孔は円形である。

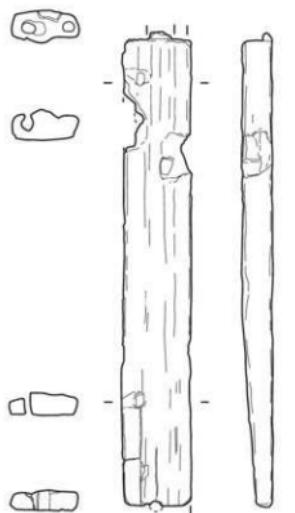
22は木栓と報告している。樹種はヒノキ科で最大長 13.7 cm、最大幅 5.5 cm、厚さ 5.3 cm を測る。形状はキノコ形で、柄部の 2 カ所に異なる角度から空いた穴が貫通している。穴は 0.3 cm 角の方形をしており、周囲には鉄錆が確認できる。



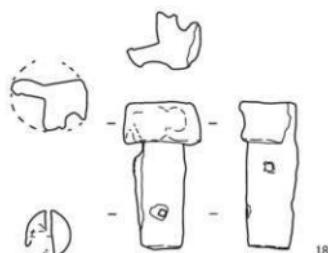
15



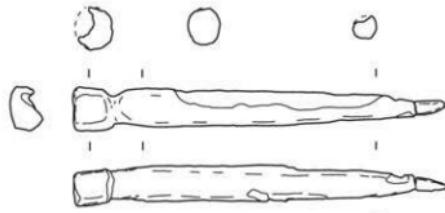
16



17



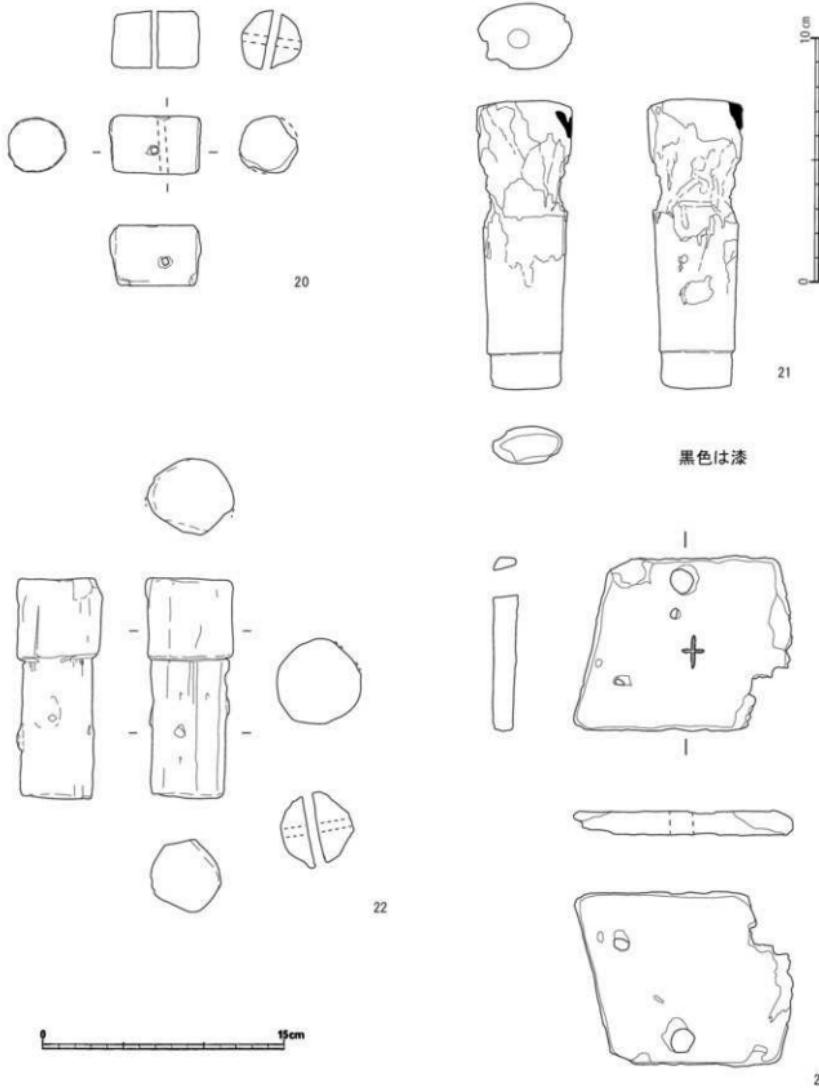
18



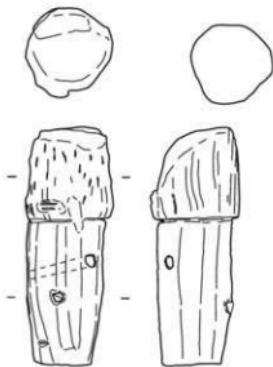
19



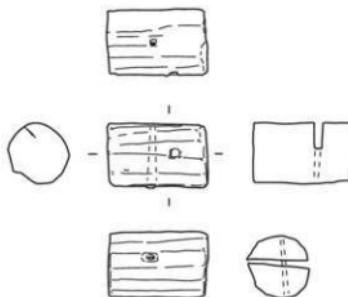
第34図 平成14年度緊急調査出土木製品①（1/3）



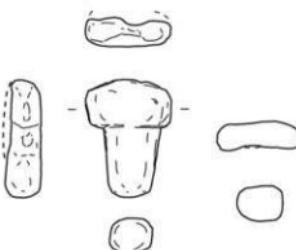
第35図 平成14年度緊急調査出土木製品② (21のみ1/2、他は1/3)



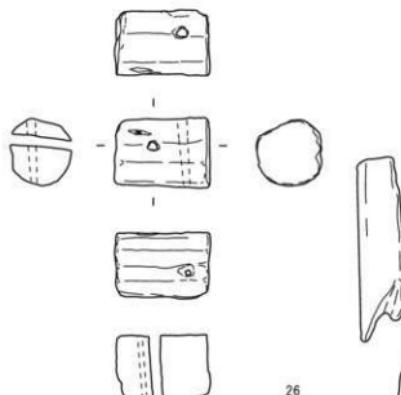
24



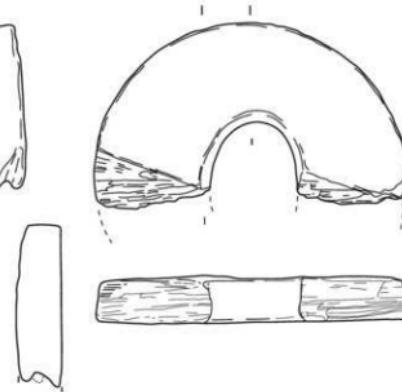
25



27



26



28

15cm

第36図 平成14年度緊急調査出土木製品③(1/3)

23 は木札と報告している。樹種はヒノキで最大長 13.6 cm、最大幅 11.0 cm、厚さ 1.6 cmを測る。台形状で中央上部に穿孔がなされており、その下に十字の刻印がなされている。刻印は片面にしか存在しておらず、同形状の遺物も確認できていないため、用途は不明である。

24 は木栓と報告している。樹種はコウヨウザンで最大長 14.8 cm、最大幅 5.4 cm、厚さ 5.5 cmを測る。蚕食により頭部に欠損が見られる。形状はキノコ形で、柄部の 2 カ所に異なる角度から空いた穴が貫通している。穴は 0.5 cm角の方形をしており、周囲には鉄錆が確認できる。

25 は木栓？と報告している。樹種はコウヨウザンで最大長 6.2 cm、最大幅 4.0 cm、厚さ 4.1 cmを測る。形状は円柱状で、2 カ所に異なる角度から空いた穴が貫通している。穴は 0.4 cm角の方形をしており、周囲には鉄錆が確認できる。

26 は木栓？と報告している。樹種はコウヨウザンで最大長 5.4 cm、最大幅 4.3 cm、厚さ 4.0 cmを測る。形状は円柱状で、2 カ所に異なる角度から空いた穴が貫通している。穴は 0.5 cm角の方形をしており、周囲には鉄錆が確認できる。

27 は木栓？と報告している。樹種はシイ属で最大長 7.3 cm、最大幅 5.3 cm、厚さ 2.2 cmを測る。形状はキノコ形で、一部が炭化し欠損している。鉄釘痕はない。

28 は輪状木製品と報告している。樹種は *Erythrophloeum* sp. で最大長 19.6 cm、最大幅 11.5 cm、厚さ 2.9 cmを測る。ドーナツを半分に割ったような形状をしており、分割面に蚕食痕がわずかに見られるが残存状態は良い。鉄錆の付着ではなく、内側部の縁が摩耗していることから、本来はロープなどを通していた遺物の可能性が考えられる。

2. 章 結

鷹島海底遺跡出土木製品は沈没してから海底面下に埋没するまでの間にフナクイムシ等の生物劣化を受けており、本来の形状や使用用途が分からぬものが多い。

また、出土木製品の多くが船材と考えられる遺物であり、鉄釘が打たれていることを考慮すると用途不明木製品についても透過X線撮影調査やX線CT調査を行い、釘の形状・方向を確認する必要があると考える。用途不明の遺物について新たな情報を得るためにも、今後も継続した調査を行う。

表4 鷹島海底遺跡出土木製品一覧表

KZK01(平成13年度)緊急調査出土遺物一覧表

辨図番号	遺物番号	種別	遺物名	樹種同定	再調査後の遺物名
第30図1	319	本製品	丸太材	<i>Dalbergia</i> sp.	板材
第30図2	325	本製品	船材、板材片	クスノキ	船材
第30図3	334	本製品	船材、板材	クスノキ	船材
第30図4	340	本製品	船材、板材	クスノキ科	船材
第31図5	341	本製品			板状木製品
第31図6	448	本製品			船材
第31図7	448	本製品			船材
第32図8	448	本製品			船材
第32図9	448	本製品			船材
第32図10	448	本製品			船材
第32図11	449	本製品			船材
第33図12	449	本製品			船材
第33図13	491	本製品	板材	<i>Dalbergia</i> sp.	板材

KZK02(平成14年度)緊急調査出土遺物一覧表

辨図番号	遺物番号	種別	遺物名	樹種同定	再調査後の遺物名
第34図15	373	本製品	木栓?	マツ属複維管束亞属	木栓
第34図16	379	本製品	木栓	マツ属複維管束亞属	木栓
第34図17	576	本製品	板状木製品	スギ科	板状木製品
第34図18	609	本製品	木栓	マツ属複維管束亞属	木栓
第34図19	641	本製品	木栓	マツ属複維管束亞属	木栓
第35図20	765	本製品	木栓?	コウヨウザン	木栓
第35図21	967	本製品	刀柄	ナツメ	刀柄
第35図22	1015	本製品	木栓	ヒノキ科	木栓
第35図23	1075	本製品	木札	ヒノキ	木札
第36図24	1169	本製品	木栓	コウヨウザン	木栓
第36図25	1239	本製品	木栓?	コウヨウザン	木栓
第36図26	1241	本製品	木栓?	コウヨウザン	木栓
第36図27	1279	本製品	木栓?	シイ属	木栓
第36図28	1321	本製品	輪状木製品	<i>Erythrophleum</i> sp.	輪状木製品

TKS15(平成16年度)緊急調査出土遺物一覧表

辨図番号	遺物番号	種別	遺物名	樹種同定	再調査後の遺物名
第33図14	8	本製品	船材	クスノキ	船材

図 版

図版 1



刈萱城跡 6 次調査区周辺



刈萱城跡 6 次 T 1 完掘状況（南から）



大石 C 遺跡 2 次作業風景



大石 C 遺跡 2 次 T 1 完掘状況（東から）



大石 C 遺跡 2 次 T 2 完掘状況（東から）



大石 C 遺跡 2 次 T 3 完掘状況（東から）



大石 C 遺跡 2 次 T 4 完掘状況（東から）



大石 C 遺跡 2 次 T 5 完掘状況（東から）

図版2



大石C遺跡3次T 1完掘状況（東から）



大石C遺跡3次T 2完掘状況（東から）



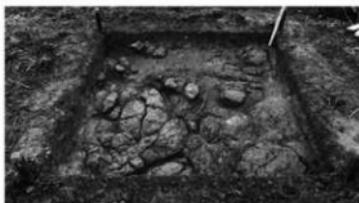
青島遺跡3次作業風景



青島遺跡3次T 1完掘状況（南から）



青島遺跡3次T 2完掘状況（南から）



青島遺跡3次T 3完掘状況（南から）

図版3



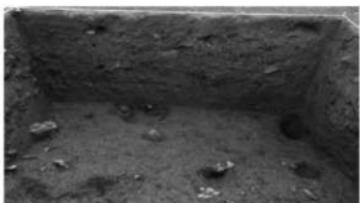
大石B遺跡1次T1完掘状況（北から）



大石B遺跡1次T1西壁土層断面



大石B遺跡1次T2完掘状況（北から）



大石B遺跡1次T2西壁土層断面



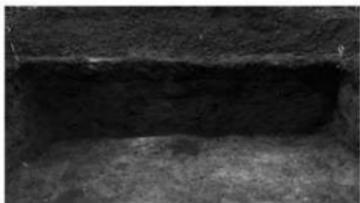
津崎鼻遺跡（隣接地）調査前状況（西から）



津崎鼻遺跡（隣接地）完掘状況（西から）



戸ノ本崎遺跡1次完掘状況（南から）



戸ノ本崎遺跡1次北壁土層断面

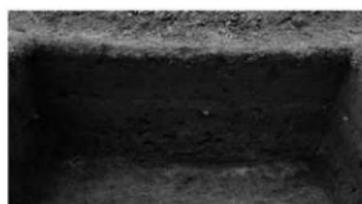
図版 4



栢ノ木遺跡 29 次遠景



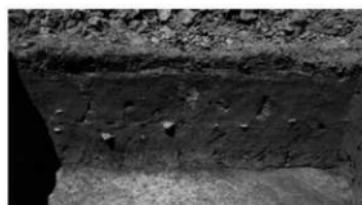
栢ノ木遺跡 29 次 T 1 完掘状況 (北から)



栢ノ木遺跡 29 次 T 1 南壁土層断面



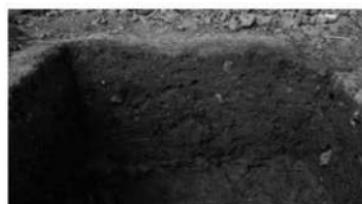
栢ノ木遺跡 29 次 T 2 完掘状況 (東から)



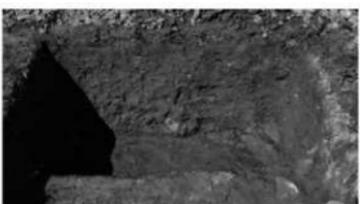
栢ノ木遺跡 29 次 T 2 西壁土層断面



栢ノ木遺跡 29 次 T 3 完掘状況 (東から)



栢ノ木遺跡 29 次 T 3 西壁土層断面



栢ノ木遺跡 29 次 T 4 完掘状況 (東から)

図版 5



栢ノ木遺跡 29 次 T 4 西壁土層断面



栢ノ木遺跡 29 次 T 5 完掘状況（東から）



栢ノ木遺跡 29 次 T 5 西壁土層断面



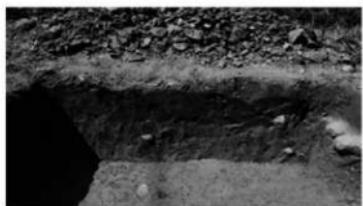
栢ノ木遺跡 29 次 T 6 完掘状況（南から）



栢ノ木遺跡 29 次 T 6 北壁土層断面



栢ノ木遺跡 29 次 T 7 完掘状況（南から）



栢ノ木遺跡 29 次 T 7 北壁土層断面

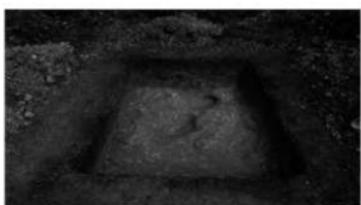


栢ノ木遺跡 29 次 T 8 完掘状況（南から）

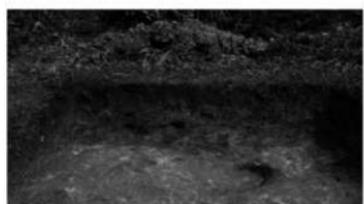
図版 6



栢ノ木遺跡 29 次 T 8 北壁土層断面



栢ノ木遺跡 29 次 T 9 完掘状況(南から)



栢ノ木遺跡 29 次 T 9 北壁土層断面



栢ノ木遺跡 29 次 T 10 完掘状況(西から)



栢ノ木遺跡 29 次 T 10 東壁土層断面

報告書抄録

ふりがな	まつうらしないいせきかくにんちょうさ (5)						
書名	松浦市内遺跡確認調査 (5)						
副書名							
巻次							
シリーズ名	松浦市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第8集						
編集者名	早田晴樹						
編集機関	松浦市教育委員会						
所在地	〒859-4598 長崎県松浦市志佐町里免365番地 TEL: 0956-72-1111 E-mail: bunkaza@city.matsuura.lg.jp						
発行年月日	西暦 2018年3月30日						
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東經 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
かざらわやあわらわい こ 刈萱城跡第6次	星鹿町岳崎免2283番地	42208	208-039	33° 22' 18"	129° 40' 21"	20150723 ~20150728	5 横望台解体工事
	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
かざらわやあわらわい こ 大石C遺跡2次	星鹿町岳崎免 他	42208	208-068	33° 24' 35"	129° 41' 26"	20161207 ~20161227	20 牛舎建設
	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
かざらわやあわらわい こ 大石C遺跡3次	星鹿町岳崎免1876番地1	42208	208-068	33° 24' 35"	129° 41' 26"	20160206 ~20160209	8 アンテナ建設
	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
かざらわやあわらわい こ 青島遺跡3次	遺物包含地	—		—	黒曜石製剝片・ 世陶磁器		
	星鹿町青島免 他	42208	208-034	33° 24' 35"	129° 41' 26"	20160215 ~20160223	12 アンテナ建設
かざらわやあわらわい こ 大石B遺跡	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
	—	—		—	黒曜石製剝片		
かざらわやあわらわい こ 大石B遺跡	星鹿町岳崎免 他	42208	208-067	33° 19' 36"	129° 42' 31"	20170703 ~20170710	8 小形風力発電設備設 置工事
	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
つざおばないせき 津崎鼻遺跡	—	—		—	黒曜石製剝片・ 世陶磁器		
	星鹿町岳崎免909番地	42208	208-065	33° 21' 7"	129° 40' 23"	20170710 ~20170712	4 小形風力発電設備設 置工事
とものとざいせき 戸ノ木崎遺跡	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
	—	—		—	世陶磁器		
かやのきいせき こ 柏ノ木遺跡29次	星鹿町牟田免314番地1	42208	208-090	33° 19' 26"	129° 42' 36"	20170712 ~20170713	4 小形風力発電設備設 置工事
	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
かやのきいせき こ 柏ノ木遺跡29次	旧石器・礫文	—		—	黒曜石製剝片		
	志佐町柏木免 他	42208	208-026	33° 19' 26"	129° 42' 36"	2017821 ~20170905	37 工業団地造成工事
かやのきいせき こ 柏ノ木遺跡29次	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
	—	—		—	赤土生土器・ 世陶磁器		

松浦市文化財調査報告書 第8集

松浦市内遺跡確認調査（5）

平成 30 年 3 月 30 日

発 行 長崎県松浦市教育委員会
長崎県松浦市志佐町里免 365 番地

印 刷 山口印刷株式会社
佐賀県伊万里市二里町大里乙 3617 番地 5